

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200184	事業の開始年月日	2012年7月2日	
		指定年月日	2012年6月29日	
法人名	有限会社 みんなの家			
事業所名	グループホームみんなの家錦織			
所在地	(〒 987-0903 ) 宮城県登米市東和町錦織字内ノ目25-1			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	9 名	
		ユニット数	1	
自己評価作成日	2022年11月8日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は悠久に流れる北上川を西に、東には北上山脈中の高木山連邦を境とした自然に囲まれた場所に位置し、デイサービスセンターと有料老人ホームを併設しているとともに、事業所内には共用型認知症デイサービスも運営しており、通って来られる方との交流により施設外の風を入れ交流を盛んに行っている。建物は『古民家調』となっており、共有スペースには薪ストーブがあり冬場には、ストーブを囲んで暖を取りながら交流をしたり、梁が見える等どこか懐かしい雰囲気を作り出している。現在はコロナ渦により例年行っているような盛大な行事や外出は控えめではあるが、利用者様一人一人の要望に応えるべく小規模で行ったりご希望に添えるよう力を入れている。地域の皆様とも交流を絶やさないように情報の発信や、運営推進会議での情報交換、ご家族と利用者様のかかわりが減らないように連絡を絶やさない。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年12月8日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の理念】

理念は「いつでも寄り添い話を聴きます」「一期一会」

## 【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人は、登米市においてグループホーム・デイサービス・就労継続支援B型・保育所を運営している。ホームは、登米市東和町の田園地帯にある古民家調の落ち着いた建物で、1ユニットで運営されている。敷地内にはデイサービスセンター、有料老人ホームが併設されている。ホームの共有スペースには薪ストーブがあり、冬場はストーブを囲みゆっくり過ごしている。クリスマス頃には施設や敷地内にイルミネーションが飾られ、毎年地域住民も楽しみにしている。ウッドデッキからは、四季の移り変わりが眺められ、暖かい日は外気浴を楽しめる。

## 【事業所の優れている点・工夫点】

・「みんなの家」の憲法といえる「クレド」を定め。ビジョン・ミッション・行動指針を明文化している。職員はこれに沿って行動し、利用者の笑顔・心の安定に繋げている。

・職員は、8つの委員会(給食、行事・地域交流、研修、防災、業務・マニュアル作成、衛生・感染対策、車両・環境整備、メンタルヘルス)のいずれかに属し、毎月会議を開催し、自主的に企画、運営をしている。

・隣接するデイサービスセンター、有料老人ホームとは行事、研修会を合同で行ったり、災害時の対応も協力している。避難訓練は毎月実施している。下道地区自主防災組織に加入し、災害時には相互に協力する協定を結んでいる。

・利用者の楽しみとして、夏祭り、サンマ祭り、敬老会など多彩な行事を企画し実施しており、感染予防を徹底し近場のドライブにも積極的に出かけている。クリスマスのイルミネーションは利用者をはじめ家族、地域住民の楽しみになっている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家錦織
ユニット名	

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の
	2. 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある
	2. 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と
	2. 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように
	2. 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている
	2. 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が
	2. 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が
	2. 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が
	2. 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームみんなの家 錦織）

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の目のつくスタッフルームに掲示し毎日の申し送りの際確認したり、毎月のスタッフ会議にも確認している。理念は年に一度見直しを行っている。	理念は、毎月行うスタッフ会議で確認し、年度末には振り返りをしている。職員は利用者寄り添い、平等に接するよう努め、視線を併せて傾聴することを心掛け、思いを汲みとっている。法人の憲法である「『みんなの家』メンバー credo」も理念とともに毎年振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々のボランティア受け入れをしたり、屋外散歩時には声をかけてくださるなどいい関係づくりをしている。新型コロナウイルスの影響があり、難しい状況だが保育所や小学校、地域行事へも参加してきている。	町内会に加入している。地域の広報紙や回覧が届き、利用者も自由に見ることが出来る。2ヶ月ごとに情報紙「みんなの家通信」を地区全戸、総合支所にも配布している。コロナ禍前は多くのボランティアが訪れていた。現在は感染状況が落ち着いている時に、少人数での踊りや歌のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェを開催しグループホームの役割や認知症の方への理解を伝える機会を作り理解して頂けるように努めている。運営推進会議でも利用者様の生活状況を伝え、対応についても話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催。活動報告、意見交換を行っている。委員やご家族の皆様からの意見や指摘等はスタッフ会議の場や、各種委員会へ報告し次へ繋げている。	会議は2ヶ月に1回開催している。メンバーは、区長、町内会長、民生委員、市職員、地域包括職員、利用者、家族である。毎回、全家族に案内し、出席ができる家族と利用者が参加している。ホームから、活動・利用状況などを報告し、意見や要望を聞いている。会議時に、水害時の避難訓練の必要性を提案され、検討し今後取組むことにした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ出席いただき協力関係を保ちながら状況を把握していただいている。市主催の研修会やネットワーク会議等への参加をしている。	市の長寿介護課職員が運営推進会議に毎回参加し、協力関係ができています。市や地域包括支援センター主催のオンライン研修に参加している。随時、コロナ感染状況について市から情報提供のメールが届いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束廃止宣言』を掲げスタッフは常に意識をして取り組んでいる。例年の内部研修には身体拘束の研修を年間計画に取り入れたり新人研修の計画にも入っている。外部研修の案内があった際には積極的に参加するようにしている。	「身体拘束廃止宣言」を掲げている。毎月開催の身体拘束廃止委員会では、日常生活のなかで不適切なケアが行われていないか確認し、改善策を検討している。スピーチロックにも十分注意して対応している。外出要求が強い利用者には、職員と一緒に散歩するなど、気分転換をしている。玄関施錠は、19時から6時頃までである。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の年間計画にも入り、定期的に研修で勉強したり、外部研修も案内があれば参加を促している。またスタッフ会議にて利用者様の変化や異常を確認し合い情報共有を行うことで防止に繋げている。	内部研修や毎月のスタッフ会議で言葉遣いやケアについて確認している。管理者や相談員は、職員が気軽に相談できる関係づくりや負担軽減を心掛け職場環境を整えている。職員間のコミュニケーションを大切にしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入社時に制度について研修がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学の際や入所前から実調などにより聞き取りを行い説明している。契約時等にはさらに細やかに説明を行い納得いただいたうえで入所して頂いている。入所後も不安・疑問等があれば早急に対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者や家族の参加があり、意見や要望を話す時間を設けている。また面会や電話連絡時に要件とは別に聞き取りを行うよう努めている。	意見が出しやすいよう関係づくりに努め、全家族に運営推進会議を案内し、開催後は報告もしている。また、利用者一人ひとりの写真入りの便りと「みんなの家通信」でホームの様子を伝えている。必要に応じ面会時や電話で意見・要望を聞いている。居室担当者が利用者の衣類の整理を行い、家族に要望を聞き衣替えなどを準備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や事業所会議で意見や提案する機会がある。代表者は日常的に事業所に顔を出すこともあり、話しやすい雰囲気を持ちいつでも相談したり意見を述べることもできる。食事を一緒に行うこともある。	毎月のスタッフ会議やホーム会議で職員の意見や提案を聞き、より良い運営ができるよう努めている。職員は各種委員会のいずれかに所属し、事業運営に関わっている。年2回、所長・管理者と面談を行い意見・要望を聞いている。資格取得時には、資金補助やシフト面でも配慮し、職員がスキルアップできるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績に応じ給与水準が決められており、努力や頑張りによって上に上がり給与も上がる機会が設けられている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部及び外部研修に参加する案内や機会が設けられ、積極的に参加できるようになっている。スキルアップのため自ら参加を探してきた研修に関しても快く参加をさせてもらえる。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者参加の研修会の参加や、グループホーム協議会への参加も行い交流の機会があり勉強している。	グループホーム協議会などの研修会に参加している。現在は、コロナ禍のためSNSを活用して交流している。同法人内の他事業所とオレンジカフェなどで交流したり、隣接するデイサービス、有料老人ホームとは合同研修会を開催したり、災害対策で協力関係を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントでも確認を行うとともに、ゆっくりと話を聴く時間を作っている。また、居室担当制とし、よりスタッフとの親密な関係となり、話しやすい環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを活用し話を聴くことに努め、入所後も面会時や電話連絡時に話をしたり、不安・要望等を聞き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員により情報の収集が行われ、よりよいサービスに繋がられるようにアセスメントを行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の話を傾聴し、出来る事出来ないことを見極めたうえで、出来ることは自身でなるべくして貰ったり、共に暮らす家族のような雰囲気作りをするように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の情報を常に発信し、良い関係の継続となるように努めている。面会時間は規制せず、感染対策を取りつつ自由に行ってもらっている。家族との外出も行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設するデイサービスや有料老人ホームにいる地元利用者との交流を図ったり、馴染みの場所への希望があればお連れしたり、ドライブで回ったりしている。	以前は、家族や友人に会ったり、買い物や外食をしたり、行きつけの美容院に通っていた人もいた。現在はコロナ禍のため、利用者とテレビを見ながら、コロナが落ち着いたらどこに行きたいか聞いている。感染予防を徹底し、短時間で近場の馴染みの場所にドライブに出かけている。また、パーテーションを配置し、時間を15分に制限するなど感染症対策を徹底しながら面会を実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの性格や相性を見極めた席の配置や、活動の進行等に配慮している。居室同士の行き来を自由にし関わりが良好となるようにしたり、それぞれ役割をもって関わったり声を掛け合って協力しながら生活できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すぐに関係を断ち切らず、通信の送付や行事へのお誘いをしている。自宅退所の方もいて電話で様子を訊いたり、自宅訪問し様子を伺ったりもした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを活用し、より詳細な意向の把握に努めている。聞き取りが困難な場合は、生活歴や家族からの聞き取りから把握するようにしている。	日常の会話や表情・しぐさから、利用者がしたい事などを把握している。特に対一になる入浴時にはゆっくり話を聞くようにしている。また、家族から聞いた生活歴などの情報を記録し、職員間で共有している。どんなケアや声かけが利用者にとってよいのか、意向や希望が叶えられるか検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人とゆっくり話を聴ける時間をとったり、日常の会話の中から聞き取れるように工夫し把握に努めている。家族からも聞き取っている。またアセスメントを行うことでより詳細な把握が出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの活用により把握し、日常会話の中からや健康チェックから状態把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き本人を交えながら話し合いをする。月一回のスタッフ会議では一人一人について現状の把握や課題などカンファレンスを行い、3ヶ月に一度モニタリングし介護計画の見直しや検討に役立っている。	アセスメントシートをもとに、3ヶ月に1回モニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。また、体調に変化があるなど必要時にはその都度見直しを行っている。担当者会議では、医師、看護師にも相談して意見を聞き反映している。家族には電話で説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを活用をし個別に記録、またケース記録にもま毎日の個々の様子を記録している。朝夕の申し送りでも情報を共有し、小さな気づきを見逃さないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりの「したい」「行きたい」を大切に出来るだけ要望に応じて柔軟な対応を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々をボランティアにお招きしたり、近所の方々をお招きしたりと地域での暮らしで交流できるようにしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の時点で希望する医療を選択いただき、それぞれの主治医とも連携しながら利用者様の健康管理に努めている。	協力医療機関がかかりつけ医の利用者には職員が同行し、受診している。通院が困難な利用者は往診医をかかりつけ医として月1回の訪問診療を受けている。デイサービスの看護師が毎日バイタルなど健康チェックをしている。看護師とは24時間オンコール体制がある。かかりつけ医以外の通院も職員が同行している。協力医の歯科の定期的な訪問診療があり、職員は医師による研修会で口腔ケアの指導を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の変化に気づいたときにはすぐ施設内看護師へ報告し指示を受け、それにより処置や受診を判断している。常に何かあれば主治医・看護師と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院には職員が付き添い病院側と情報交換をしている。入院の際は施設病院側でやり取りする情報提供書があり活用。入院中も病院や家族とやり取りをし情報交換し、本人様の状態を把握している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で終末期の希望を本人と家族に伺ったり、文書にて意向を残してもらっている。望まれる終末期にできるよう職員は勉強会を行っている。終末期になった場合には本人や家族への十分な説明を行い、一緒に考え支援していく関係も作っている。	看取りの実績がある。看取りの指針が作成されており、看取り時の体制や手順などが詳しく規定されている。入居時に指針を本人や家族に説明し、意向を聞いている。医師が終末期と判断した場合、家族に改めて説明し、家族・医師・看護師・職員が話し合い連携している。職員は、家族が望む看取りができるよう勉強会を行い支援に努め、看取り後には管理者や先輩職員が担当した職員の心のケアをフォローしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練にて応急手当や初期対応の訓練等おこなっている。マニュアルや連絡網を使用した訓練や勉強も行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施している。例年では地域住民の皆さんと共同した訓練を行っていたが、新型コロナウイルスの影響にて実施が困難な状況となっている。非常時には地域との防災協定は結ばれている為、協力体制は整っている。	火災、風水害、地震対応マニュアルが整備されている。防災訓練は消防署立会いのもと行い、避難訓練は毎月行っている。下道地区自主防災組織に加入し、災害時には相互に協力する協定を結んでいる。運営推進会議で委員から、北上川が近いため大雨など水害を想定した避難訓練の必要性を指摘され、検討し取組むことにした。設備点検は2ヶ月毎に業者が行っている。非常用食料は3日分でローリングストックを実施している。コロナ感染予防・対応マニュアルを作成し、こまめな消毒や換気を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や状態に合わせた声掛けや対応を行っている。明るく丁寧な言葉遣いを心掛け、感謝の言葉は常に忘れないようにしている。	基本、入居時には苗字に「さん」付けで、慣れてきたら本人に聞いて名前に「さん」を付けて呼んでいる。利用者の希望、状態に合わせて、丁寧な言葉遣いや方言を交えるなど状況に合わせている。居室に入る時は、ノックして返事がある時入室している。入浴は同性介助を基本とし、プライバシーに配慮した介助に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の言葉をよく聴き取り、思いを表せるようにしている。選択肢を用意し自己決定できるようにもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの希望や状況に合わせた活動や作業を行い、「したい」「行きたい」の希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域馴染みの理髪店に来てもらい、本人に合った髪型や希望をお願いしている。入浴や行事・外出の際には本人様に衣類を選んでもらうなどしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝い頂いていたことも、新型コロナウイルス影響により休止しているが、メニューや行事食、おやつにも力を入れながら別の楽しみで補えるようにしている。	本部の管理栄養士が献立を作成している。食材は主に業者に配達を依頼し、代替が必要な食品がある場合は近隣スーパーで職員が購入し、調理専門の職員が手作りしている。利用者の状態に合わせて刻みやとろみ食で対応している。畑で収穫した旬の野菜も食材に取り入れて楽しんでいる。夏祭りやサンマ祭り、敬老会、クリスマスなど行事食を工夫したり、誕生会には、本人に食べたい物を聞いて、普段のメニューでは食べられない生ものやラーメンを提供することもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間シートの活用により摂取量の把握に努め、水分に関しては摂りやすいものにして多めに摂れるようにしたり、代替え品を管理栄養士と相談しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じた用具や方法で実施している。能力に応じて検討し、セッティングや介助も個々に合わせたものにし清潔保持に努めている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートを使用し排泄パターンを把握。尿量や状態に合わせたパット類を日々検討し変更しながら対応している。	24時間シート（入居者の詳細を24時間系列で記録された用紙）で利用者の排泄パターンを把握し、声がけ、トイレ誘導などを行っている。各居室にはトイレがあり、プライバシーを保つことができる。夜間はパッドの種類を利用者の状態に合わせて使用し、ナースコールも利用できるようにしている。便秘対策としては、食事に乳製品を提供したり、軽運動も取り入れて対応している。必要に応じて医師から処方された薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼りすぎず、乳製品の活用や日々の体操等で体を動かし、排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	同性介助の実施や時間帯を希望に合わせて行っている。気分ではない時には翌日にずらしたり、足湯にしたりと無理強いもせず、個々に合わせて行っている。	週2・3回の入浴支援を基本に、お湯は午前と午後で換え、湯の温度は個々に合わせて支援している。時間は利用者の希望を聞き対応している。風呂はひのき風呂で、季節によって菖蒲湯、柚子湯など提供している。入浴前に脱衣所をあらかじめ温め、入浴時の着脱など利用者自身ができることは見守りしている。入浴できない時は足浴に変更したり、日をずらし清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や明るさ、就床時間等、個々に合わせて行っている。眠れない時は無理に寝ず一緒にテレビを観たり、温かい飲み物を提供しリラックスしてから休んでもらう等工夫し、安眠に繋げられるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧のファイルで常に確認し、誤訳等ないように氏名・時間帯・日付を確認し飲み終えるを確認している。薬の変更の際は書面及び口頭で申し送りし共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から、個々の能力に合わせた役割をもっていただき、その能力を活かし活動や軽作業等もしてもらっている。行事も小規模にはなっているが楽しみの一つとして行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分によりドライブをしたり、散歩や外気浴と希望に合わせて行っている。例年は遠方への外出も行っており、今の時期では紅葉見物にも出かけていた。新型コロナウイルスの影響により縮小していたが、最近では日常的な散歩という身近にできることを好まれる傾向にある。	季節ごとの年間行事はあるが、天気や利用者の様子を見て、ドライブや散歩に出かけている。コロナ禍前は、お花見や小旅行、紅葉狩りやリンゴ狩りなど遠方にも出かけていたが、現在は近場へのドライブ、散歩、ウッドデッキでの外気浴などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は自己管理、家族管理とし数名所持されているが、遣う場合は職員が立ち会ったり、買い物の付き添いをしている。病院の支払いを自分でしたいとされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等は希望があれば必要な物品を準備したり、切手の購入・投函の支援を行う。電話もかけるサポートや携帯電話の所持者には、使用方法を教えたりサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は落ち着いた雰囲気や色合いで、照明も落ち着いた色合いで統一している。室内環境は四季に応じた装飾をし適切を感じてもらったり、季節の草花を飾っている。各居室、リビングに室温計があり配慮することが出来る。	室内は落ち着いた色合いで、吹き抜けがあり広々とした空間になっている。掃き出し窓から繋がるウッドデッキは、憩いの場や利用者同士の交流の場にもなっている。畳の小上がりやソファがあり、居心地よく過ごせるよう配慮されている。季節ごとの飾り付けで、四季を感じられるよう工夫している。薪ストーブがあり、冬場はストーブを囲んでゆっくり過ごせる。大型の空気清浄機があり、温・湿度は職員が管理している。掃除が行き届き、整理整頓がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にサンルームがあり、ちょっとした交流の場となっている。お茶を運び二人きりで話をする事が出来たり、ウッドデッキも広々とした空間で天候が良く暖かい日には数人でも過ごせる空間となっている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込むものには制限はなく、使い慣れたもの馴染みのあるもの等自由に持ち込まれている。冷蔵庫やこたつ、運動器具、足踏みマシンを持っている方もいる。	エアコン、洗面台、トイレ、クローゼット、加湿器が設置されており、ナースコール、センサーライトで見守りをしている。利用者は使い慣れたベッド、テレビ、冷蔵庫などを持ち込んだり、壁にはカレンダー、写真など飾って居心地のよい居室になっている。掃除は、早番の職員が行い、衣替えなどは居室担当者が行っている。ウッドデッキの付いた居室もあり、窓からは四季折々の景色が眺められる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所へ手すりを付けることで、立ち上がりができる、足元には足元灯をつけ一人でトイレに行ける。そんな小さなことに配慮し『できる』『続けられる』で自宅のような生活が続けられるように配慮をしている。		